『通勤ライナー』と一般列車の共存

一橋大学鉄道研究会

部長挨拶

この度は研究誌を手にお取りいただき、ありがとうございます。新時代、令和。本稿は、記念すべき令和第一号の研究誌となりました。それに呼応してか、鉄研でも様々な変化がありました。まずは、一橋祭での講演会企画の実施。これはおそらく初めての試みではないか、と思います。一橋祭委員会でのノウハウを生かし、発案から企画まであらゆる面でリードしてくれた副部長の秋元をはじめ、これに協力してくれた部員には改めて感謝の意を表したいです。本当に凄いプロジェクトを持ち込んでくれました。

また、今年は実に３年ぶりに、複数名の新入部員の獲得に成功いたしました。一昨年は０名、去年は１名と私が運営に携わって以来、新歓面では非常に厳しい状況が続き、本当に存続が危ぶまれるという危機感と隣り合わせで活動しておりました。１つ下の代の後輩がいなかったため、私は２季連続で部長を務めさせていただくことになり、責任もあって今年ダメならいよいよ・・・と思ってしまう日々もなかったと言えば嘘になります。それゆえに、今年は４名の新入部員に恵まれたことは、ようやく鉄研に貢献する仕事ができたと実感し、喜びと安堵の思いで一杯でした。もちろん私の仕事はこれで終わりではないですが、令和に橋を架ける世代を創出できたこと、彼らはそれぞれの個性を生かしつつ精力的にいつも活動してくれていることには大変な満足感と達成感を抱いております。

最後に、少しだけ研究の話をして締めさせていただきましょう。今年の研究テーマは、「ライナー列車の介在による通勤形態の実態調査と考察」です。何名かの部員がラッシュ時の郊外ターミナル駅などで実地調査を行うなど、単に紙面での分析にとどまらない研究形態を採った点は今年の研究ならではの斬新な点だと考えております。また、講演会での内容は通勤ラッシュについてお話していただく予定であり（※この原稿の執筆は一橋祭前の１１月上旬)、研究誌での内容と講演会の内容を連結させるとさらに

このテーマに対する理解が深まるものだと思います。土曜日の昼以前にこちらをお読みの方は、ぜひ３１番教室にお越しください！

一橋大学鉄道研究会第 57 代部長